

技術・家庭科（技術分野）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫＞ ○技術と生活や社会、環境との関わりについて、より一層の理解を深めるために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫＞ ○安心、安全で便利な生活の実現や持続可能な社会の構築のために、主体的に技術に関わり、技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p>	
資 料	○学習に関心をもたせ、学習効果を高めさせるために、どのような工夫が見られるか。 ○資料と本文の関係及び資料の配置には、どのような工夫が見られるか。	
表記・表現	○タイトル・見出し・説明文などの使い方には、どのような工夫が見られるか。 ○用語・記号・図記号・単位・数値等の使い方には、どのような工夫が見られるか。	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<p style="text-align: center;">新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology</p>	<p style="text-align: center;">2 東 書</p>
内容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○技術の原理・法則や基礎的な技術の仕組みについて、本文の内容を裏付ける図などが掲載され、科学的な思考に基づく知識が習得できるよう工夫されている。 ○問題解決をするために身に付ける必要がある技能は、副題材の実践例や「TECH Lab」にまとめられ、問題に応じて習得した技能を適切に選択できるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各内容とも最初に基本的な知識の習得を行い、その後「技術の問題解決の工夫」「問題の発見と課題の設定」を行う学習内容で構成されている。そして第2章の最後に「問題解決の評価、改善・修正」を取り上げ、自分たちの学習過程を振り返らせるよう工夫されている。また、生徒自身の問題解決に導くため、「問題の発見、課題の設定」「設計・計画」「製作・制作・育成」「評価、改善・修正」の流れを統一的に示されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために「技術のめがね」「最適化の窓」という欄が設けられている。</p> <p><技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○各内容の「社会と発展と技術」では、「技術の光と影」について示されており、持続可能な社会のためにどのようなことができるか考えさせるよう工夫されている。 ○巻頭の「SDGs と Technology」では、持続可能な社会の構築のために技術が果たしている役割について分かりやすくするよう工夫されている。 ○巻末の「Society5.0 のその先へ」では、AIやIoT、ビッグデータについて示されており、持続可能な未来のためにどのようなことができるか考えさせるよう工夫されている。</p> <p><よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○各内容の最終章では、技術の見方・考え方を働かせて最適化について考慮し、これからの新しい技術の開発と持続可能な社会の実現について考えたり調べたりできるよう工夫されている。</p>	
資料	<p>○問題解決例が複数掲載され、地域や学校の実態に応じて選択して指導できるよう工夫されている。 ○各編の最終章には、生徒が、技術の評価し、適切に簡易・運用したり、新たな発想に基づいて改良・応用したりするためのワークシートが掲載されている。 ○技術に携わる人を紹介する「技術の匠」や、先進的な分野の「技術の匠」を紹介する「すごいぞ！技術」が掲載され、生徒の勤労観・職業観を育むことができるよう工夫されている。 ○技能に関する動画、理解を深めるためのコンテンツ等にリンクするQRコードが備えられている。</p>	
表記・表現	<p>○書体はUD書体が使用されている。また、可読性を高めるとともに、重要語句は太字で表現されている。さらに、カラーバリアフリーの観点から、配色とデザインについて、色覚に関する校閲を受けるなど、ユニバーサルデザインに配慮されている。</p>	
総括	<p>○各内容は、「理解する」、「問題解決に取り組む」、「つなげる、広げる」のまとまりで構成されている。 ○「統合的な問題解決」では、新しい技術イノベーションにつながる問題解決になるために、四つの技術を統合するよう工夫されている。</p>	

書名 項目	新 技術・家庭 技術分野 明日を創造する	6 教 図
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○基礎・基本の知識と技能を1章で習得するように構成され、2章の「プチ問題解決にチャレンジ!」の製作題材は基礎技能が学べる題材になるよう工夫されている。 ○教科書と別冊「スキルアシスト」により、技能を身に付けることができるようにし、加工法の確認や実習中に作業を確認できるよう工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各内容とも第1章で基本的な知識と技術の工夫について学び、その後第2章で設計や計画について学習するよう構成されている。また、1章と2章の最後の「学んだことをまとめよう」で、身近な地域の取組を調べて自分たちの学習過程を振り返らせるよう工夫されている。問題解決の流れを「イメージしよう」「設計(計画)しよう」「完成させよう(育てよう)」「活用しよう(振り返ろう)」の4ステップで統一的に示されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために「未来をつくろう」「やってみよう」という欄が設けられている。 </p> <p> <技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○各内容の「社会と発展と技術」では、「技術のプラス面とマイナス面」について示されており、「技術の誠実ないかしかた」を考えさせるよう工夫されている。 ○SDGsの17の目標のマークが関連する学習内容に示されており、日本や社会で起こる諸問題を、自らに関わる課題として捉えさせるよう工夫されている。 ○巻末の「未来の社会を創造しよう!」では、3年間で学んだことを振り返り、未来にどのような技術があったら役に立つか考えさせるよう工夫されている。 </p> <p> <よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○各内容の最終章では、技術の見方・考え方を働かせて今ある技術のプラス面・マイナス面を考慮し、未来のために持続可能な社会の実現について考えたり調べたりできるよう工夫されている。 </p>	
資 料	<p>○実習題材が複数掲載され、地域や学校の実態に応じて選択して指導できるよう工夫されている。</p> <p>○生徒自身の設計や計画を記入できる「設計・計画シート」「計画・育成シート」が用意されている。</p> <p>○技術に携わる人を紹介する「技ビト」や、様々な製品に込められた技術などを紹介する「スゴ技」が掲載され、生徒の勤労観・職業観を育むことができるよう工夫されている。</p> <p>○技能に関する動画、理解を深めるためのコンテンツ等にリンクするQRコードが備えられている。</p>	
表記 ・ 表現	<p>○書体はUD書体が使用されている。また、カラーバリアフリーの観点から、色覚に関する校閲を受けるとともに、重要語句は青太文字にし、視認性を上げるように配慮されている。</p>	
総 括	<p>○各内容は、「技術を見つめよう」、「技術をいかそう」、「未来をつくろう」のまとまりで構成されている。</p> <p>○「夢をかなえる技術」では、夢を形にしたり、工夫し創造することの大切さを伝えたりするために、領域を横断した様々な技術を紹介するよう工夫されている。</p>	

書名 項目	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	9 開隆堂
内容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○基礎的・基本的な知識や技能の習得とともに、「生活の中の真理」を追究できるようになるために、科学的な根拠を基に技術を理解・習得できるよう工夫されている。 ○適宜「実験」や「調べ学習」を取り上げ、科学的な根拠を伴い技術を理解できるよう工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各内容とも最初に基本的な知識の学習を行い、その後「問題解決の手順（内容A）」「技術による問題解決（内容BCD）」について学習するよう構成されている。また、技術の学習で行う問題解決の流れを見開きで表記されており、ガイダンスでは漫画形式で問題解決の流れが示され、各内容では「問題の発見と課題の設定」「構想と設計（計画）」「製作（制作、育成）」「成果の評価と改善」で統一的に示されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために「技術と私たちの未来」「学習を振り返ろう」という欄が設けられている。 </p> <p> <技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○各内容の「社会と発展と技術」では、技術の「可能性」と「課題」について示されており、これからの技術とその活用について考えさせるよう工夫されている。 ○各内容のワークシートに、「技術とSDGsとの関連」について考えさせたり、「SDGsの実現に向けてどのようにかかわっていたか」振り返らせたりするよう工夫されている。 ○巻末の「命を守る防災、医療・介護の技術」では、自然災害や病気・けがなどについて、3年間で学んだことを生かし、解決策について考えさせるよう工夫されている。 </p> <p> <よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○各内容の最終章では、学習内容から技術の見方・考え方を働かせて社会とのつながりについて考慮し、新しい技術の開発と持続可能な社会の実現について考えたり調べたりできるよう工夫されている。 </p>	
資料	<p>○実習例が複数掲載され、地域や学校の実態に応じて選択して指導できるよう工夫されている。</p> <p>○既存の製品を調べて技術の見方を働かせるためのワークシート、問題解決について技術の見方・考え方を基に振り返るためのワークシートが掲載されている。</p> <p>○技術に携わる人が「Interview」として紹介され、仕事内容や仕事に就いたきっかけが掲載され、生徒の勤労観・職業観を育むことができるよう工夫されている。</p> <p>○技能に関する動画、理解を深めるためのコンテンツ等にリンクするQRコードが備えられている。</p>	
表記・表現	<p>○書体はUD書体が使用されている。また、重要語句は(ゴシック体)太字にして、表記のメリハリがつけられるよう工夫されている。さらに、カラーユニバーサルデザインに関して、校閲を受け、人によって受ける情報に差が出ないように配慮されている。</p>	
総括	<p>○各内容は、「基礎・基本」、「問題解決」、「技術と私たちの未来」のまとまりで構成されている。</p> <p>○「技術の出口」では、社会の問題に技術で対応するために、様々な技術を組み合わせた考え方を深められるよう工夫されている。</p>	

技術・家庭科（技術分野） 調査資料 2

○分量について

	内容	東書	教図	開隆堂
1	総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	305	339	302
2	QRコードの数（※「教図」は別冊も含む）	136	61	113

○項目別ページ数について

< A 材料と加工の技術 >

	内容	東書	教図	開隆堂
(1)	生活や社会を支える材料と加工の技術	27	19	22
(2)	材料と加工の技術による問題の解決	15	31	48
(3)	社会の発展と材料と加工の技術	9	4	4

< B 生物育成の技術 >

	内容	東書	教図	開隆堂
(1)	生活や社会を支える生物育成の技術	15	13	18
(2)	生物育成の技術による問題の解決	15	23	20
(3)	社会の発展と生物育成の技術	9	4	4

< C エネルギー変換の技術 >

	内容	東書	教図	開隆堂
(1)	生活や社会を支えるエネルギー変換の技術	32	22	28
(2)	エネルギー変換の技術による問題の解決	22	32	16
(3)	社会の発展とエネルギー変換の技術	6	4	4

< D 情報の技術 >

	内容	東書	教図	開隆堂
(1)	生活や社会を支える情報の技術	20	18	34
(2)	ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決	18	28	16
(3)	計測・制御のプログラミングによる問題の解決	18	22	12
(4)	社会の発展と情報の技術	6	4	4

○キャリア教育との関連にかかわる箇所と例

東書	33 技術の匠 プロダクトデザイン 建設家 文具メーカー 農福連携 林業 自動車部品メーカー 化学工業メーカー メタバース ボディシェアリング 学んだことを社会に生かす
教図	21 技ビト 先輩からのメッセージ 木工作家 盤師 水産技術 養豚農家 電動車椅子 整備サポート 筋電義手 音声合成技術 日本の技術を支える人々の想い
開隆堂	7 家具 造船 栽培・飼育・養殖・林業 アシストギア トイレ用リモコン ロボットトイ プログラミング教材 Interview

○企業などとの連携にかかわる箇所と例

東書	31 持続可能な未来を目指して 未来を創る技術による問題解決 燃料自動車 新幹線 発電エネルギー問題 自動販売機 チャットボット 自然災害に備える AI ボディシェアリング
教図	23 建築技術 町工場技術 環境調節の技術 選抜育種 水産生物の飼育 編む技術 電気の安定供給 ロボット メタバース 生体認証 ドローン 宇宙から水産業・農業を支える
開隆堂	22 自動運転技術・ナビゲーションアプリ等 企業の製品開発 CAD 3Dプリンタ CLT 完全養殖 品種改良 複合飼育 酪農教育ファーム 地域の公的機関や教育機関、企業 エネルギーの有効利用 フィルタリング オープンソース

○安全指導にかかわる箇所（※安全にかかわるマークの数）

東書	19 作業 工具 機械 塗装 農薬 飼育 水産生物 電気機器 情報の学習
教図	47 実習 工具 機械 塗装 農薬 電気機器 保守・点検 情報セキュリティ
開隆堂	25 作業 工具 機械 塗装 農薬 電気機器 保守・点検

○その他

	内容	東書	教図	開隆堂
(1)	題材数	15	15	14
(2)	製作品の例示数	12	18	32
(3)	観察・実験、見学、調査・研究の例示数	187	157	178
(4)	技術にかかわる倫理観(知的財産、生命倫理、情報モラル等)について取り上げている箇所数	27	33	48